

【連絡事項】

長与町武道館の稽古ですが、メール等でお知らせしている注意事項をお守りください。
なお、緊急で稽古休みをする際には、キャンセルを長与町役場に連絡する必要があります。
使用料は返却されませんが、別の団体が使用できるようにする配慮からだと思います。
ご協力よろしく申し上げます。

会員投稿 吉田さんの投稿です

長崎にUターンしたのが 1988 年(昭和 63 年)12 月。そして 2 か月後の 1989 年(平成元年)2 月に合気道を始めたので、今年で 35 年が経過しました。途中、ケガや家庭の事情等でほとんど稽古にいけない期間もありましたが、縁あって続けていくことができました。

もともと、武道武術の類が好きで書籍等をよく見ていましたが、実際に経験したことがあるのは、柔道と剣道でどちらも 1 年半ぐらいでした。二十代で力が有り余っていたのか、力任せにやっていたなと思えます。このときに使用していた道着は捨てずに保管していたので、合気道を始める際には、柔道着と剣道着の袴と木剣を再利用できました。このため、初期費用は入門料だけで済みました。

入門当時から先生や先輩方からよく言われたのが「力を抜け」でした。

「力を抜くと力が出る」という一見矛盾したようなことが「呼吸力」のおもしろさですね。

自分ではうまくできませんでしたが、先輩方から受ける力の感じがこれまで経験したこととは異なっていて、思わず「不思議な力だ」と感動してしまいました。

「やっつけてやろう」「うまくやろう」等の邪心があるときは「力み」がでるので、うまくできません。

力をいれた感じがしないときにはよく効いていると言われたりもしました。

この不思議な感覚が気に入り、合気道の沼にハマって現在に至っています。

自分の知らない新しいものに学ぶとき、自分のこれまで培ってきたものを一旦わきに置き、ゼロベースで取り組むことが重要であることはよく言われることです。この時の体験があったので、以後、新しいことに向き合うときに柔軟になれたようです。

「邪心があるとき、呼吸力は出てこない」ということで、精神的なことをよく言われましたが、最初のころは技の方ばかりに興味があり、精神面はまじめに取り組んでいませんでした。

それでも、先輩たちが穏やかなのに強いということは、合気道という武道を続けているとあのようになれるのかなとおぼろげに感じたことを覚えています。

35 年も続けられたのは単に武道が好きだというだけでなく、道場の人達が親切であり、雰囲気良かったからでしょう。でも、最大の理由は、「合気道の人達との飲み会が楽しかった」からでしょうね(笑)

編集後記

「北星館便り」もついに 100 号となりました。2002 年 7 月 13 日に合気万生道長崎北道場として発足した時から会報として「岩屋通信」が始まりました。その後「岩屋便り」となり、現在の「北星館便り」と名称を変えながら、会員および他の道場の皆様にご愛読いただきました。

過ぎてみれば、あっという間ですが、その間、いろいろなことがありました。会報をみて、入門希望者が訪ねてくることや、テレビ取材の依頼があったりなどもしました。

これからも、北星館内外への情報発信を続けていきますので、皆様、ご協力よろしくお願ひいたします。